

水の都大阪の再生

大阪市 計画調整局 企画開発部 都市デザイン課 担当係長 川上 睦二

1. はじめに

大阪は海に面し、背後に近畿の諸地域を控えた立地にあり、かつては「難波津（なにわづ）」と呼ばれた国際港が設けられていた。4世紀の後半から遣隋使、遣唐使などを通して朝鮮半島や中国大陸などと交流が盛んに行われるにつれ、海外の文化・技術・情報などを受け入れるわが国の国際交流の窓口として重要な役割を担ってきた。

7世紀には、難波津に近い場所に「難波宮（なにわのみや）」が造営されてからは、大阪は、わが国の政治、文化の中心地であっただけでなく、渡来人たちも居住する国際都市でもあった。

現在の大阪都心の基盤は、主に16世紀に海に面する恵まれた立地条件に着目した豊臣秀吉や松平定信による城下町の建設によって出来上がった。



図-1 かつての大阪（出典：水の都大阪再生協議会）

こうした都市基盤づくりには、中之島を開拓した淀屋常安や道頓堀川を開削した安井道頓など町人によりつくられたものもある。

これらの開発により、海上輸送ルートと水路網を利用して全国から物資が集まり、大阪は諸国の蔵屋敷が並び「天下の台所」と呼ばれたわが国最大の経済都市となった。

この時代に、川沿いのまちなみ、「八百八橋」と呼ばれた多くの橋からの眺め、船遊びや夕涼み、天神祭、水辺の市場や荷揚場などの風景が数々の図絵に描かれている。

今回、水の都大阪の再生構想を紹介するとともに、市内の都心河川景観について述べるものである。

2. 水の都大阪再生構想

水の都大阪の再生については、平成13年12月に内閣府都市再生本部において都市再生プロジェクト（第3次）に決定された。

豊かでうるおいのある質の高い都市生活を実現するため、大都市圏の既成市街地において、自然環境を保全・創出・再生することにより水と緑のネットワークを構築し、生態系の回復、ヒートアイランド現象の緩和、自然とのふれあいの場の拡大等を図ることを目的とし、「水の都大阪」を再生するため、都心の河川について沿川のまちづくりと一体となった再生構想を策定するとともに、このうち先行的に道頓堀川的环境整備を推進することが位置づけられた。



図-2 水の都大阪を代表する口の字回廊

この都市再生プロジェクトの決定を受けて、平成15年3月、国、大阪府、大阪市、経済界等からなる水の都大阪再生協議会を設立し、水の都大阪再生構想を策定した。

この再生構想は、都心を口の字に取りまく河川、堂島川・土佐堀川、東横堀川、道頓堀川、木津川を「水の回廊」と位置づけ「時を感じる水の回廊づくり—輝け水の都大阪—」を目標に掲げている（図-2）。「時を感じる」の「時」には重厚な大阪の歴史、四季折々・昼夜に様々に変化する都市の表情、時代を切

り開く先進性を込めている。



図一 3 道頓堀川の水辺整備イメージ

「水の回廊づくり」は、次の4本の柱を基本方針としている。

1) 美しい水辺をつくる

大阪の都心では、道路から川が望めず、川から見た景観もまちの安全を守る高い堤防と建物の裏側が並んだ場所が多い。構想では、各ゾーンの特性を生かしながら、高い堤防の親水性を高める創意工夫に努め、沿川のまちづくりとして連携して川に顔を向けた建物誘導をはじめ、水辺を活かした都心の居住・就業環境を創出するなど、水の都大阪の基盤となる美しいまちづくりを進める。

2) 心に響く水辺のにぎわいをつくる

水辺を舞台に四季折々の「水の都大阪」の新たなイベントづくりを進めるほか、水辺空間に居住者や就業者、来訪者が集い、憩える空間やにぎわいの拠点づくりを進める。このような水の都大阪の魅力を広域的に情報発信すると共に、受け入れ体制を充実させ、積極的な集客活動を行う。

3) 水辺をネットワークし、魅力を高める

大阪にある豊富な歴史・文化資源を水を軸につなぐ「水の回廊」のイメージづくりを進め、歩行者ネットワークや水と陸との結節機能を充実させて、訪問者の回遊性を高め、一体的な魅力としていく。また、水上交通の航路網の拡充、インフラの整備など、水上交通の活性化に向けた取り組みを展開する。

4) やすらぎの水環境をつくる

南の道頓堀川ゾーンは難波・心斎橋など大阪屈指の商業エリアである。このゾーンは昼夜を問わずにぎわいがあり、世界遺産に指定された人形浄瑠璃・文楽を中心に上方芸能を上演する国立文楽

劇場や松竹座、新歌舞伎座、湊町リバープレイスなど芸能・文化施設が集中している。

一方、北の中之島ゾーンは、中央公会堂や日本銀行、中之島図書館などの近代建築物群、加えて八軒家などの歴史・文化資源が立地する水都大阪を代表する歴史的空間を形成している。これら大阪らしい特徴のあるゾーンをつなぐのが、東横堀川ゾーンと木津川ゾーンである。道頓堀川ゾーンの整備イメージは図一3のとおりである。

水の都大阪は、世界でも希な都心を囲む水の回廊



写真一 1 中之島地区

であり、豊富な水辺の集客・歴史・文化資源としてのポテンシャルを持っており、大阪市域の約1割を占める河川は大阪のまちづくりに活かせる貴重な空間である。

これら河川・水辺空間を市民、開発事業者、行政が協力して、良好な景観をつくりだしていくことが大阪市域全体の個性ある良好な都市景観の形成の鍵となる。

3. 大阪市の景観の取り組み

3-1 大阪市都市景観条例

大阪が活力ある都市であり続け、市民や大阪を訪れる人々が、美しさや魅力を感じ、快適に暮らし、活動し、集うまちを実現するため、平成10年9月に「大阪市都市景観条例」を制定した。

3-2 大阪市景観形成基本計画

大阪市都市景観条例に基づいて、都市景観の形成を総合的かつ計画的に推進するため、都市景観の形成の基本的な目標と、その目標を実現するための指針を定めている。

1) 都市景観の形成の基本的な目標

アメニティと美しさに満ちた大阪らしい都市景

観をつくる。

2) 実現するための指針

市域の景観は、単体の建築物や建築群（まちなみ）と道路、公園など（公共施設）が組み合わさって形成されており、市域の景観を向上するために、市民、事業者及び行政が相互に連携、協力してデザインの水準を高め、市民が親しみや愛着がもてるように努める。

3-3 景観形成地域の指定

大阪の特性を生かした都市景観をつくるために、景観的なまとまりをもった一定の地域を景観形成地域に指定し、その特性に応じた都市景観の形成の目標と基本的な方針を定めている。

この目標と方針は、市民、事業者、及び行政の自主的な景観形成や、相互の連携、協力した景観形成を進める指針となるものである。

1) 大川景観形成地域

【景観形成目標】

大川周辺では、天神祭などの伝統行事の舞台にもなっている、湾曲を繰り返す広がりのある河川空間と、川沿いの花・緑豊かな公園や、大阪の歴史を感じさせる建築物や構造物及び新しい高層住宅群やビルなどが調和した優れた眺望を有し、高密度に市街化された大都市の中において、貴重な景観が形成されている。

こうした特性を活かし、「川沿いのまちなみ」を整えとともに、「水辺の魅力」を高めることにより、水・緑とまちが調和した、人々に、やすらぎや親しみを感じさせる水辺の景観を形成することを目標としている。



写真—2 大川景観形成地域

【景観形成方針】

景観形成の基本的な方針としては、川岸や橋の上などの眺める場所や季節、時間帯によって変化する多様で、美しい眺望を有する水辺の特性を生かすと共に、川沿いの建物や構造物など輪郭や中上層部のデザインについて、周辺とのバランスに配慮することにより、水・緑とまちが調和した「川沿いのまちなみ」を形成することを掲げている。

また、良好な河川水質や夜間も安全で快適な水辺の連続した歩行者空間及び周辺から水辺へのアプローチの確保に努めるとともに、周辺と調和のとれた建築物低層部や敷地のデザインとすることなどにより、「水辺の魅力」を高め、人々が伝統行事に集い、川沿いのまちなみの変化が楽しめる、安らぎや親しみある水辺空間を形成することとしている。

2) 中之島景観形成地域

【景観形成目標】

中之島東部は、豊かな水と緑、大阪の都市の発展を今に伝える歴史的建築物や構造物及び文化財・史跡が多数あり、水の都大阪の歴史的空間を形づくっている。

中之島西部は、広い敷地に大阪の国際・文化・情報などの新しい都市機能を持った中高層の建築物の整備に伴い、新しい都市景観の形成が進んでいる。

こうした特性を活かし、「水辺を活かしたまちなみ」の形成を図るとともに、中之島としての「まちの魅力」を高めることにより、水の都大阪のシンボルにふさわしい都市景観を形成することを目標としている。



写真—3 中之島景観形成地域

【景観形成方針】

景観形成の基本的な方針としては、中之島東部は、水辺に面した建築物や構造物のデザインの工夫に努めることにより、水・緑や歴史的建築物、構造物などと調和した、まとまりのある川沿いのまちなみを形成し、水の都大阪の歴史や伝統を受け継ぐ、風格のある都市景観を形成すること、中之島西部は、水辺に囲まれた地域特性や周辺の建築物などとの調和に配慮し、建築物や構造物のデザインの工夫や敷地の緑化に努め、国際・文化・情報化などの拠点にふさわしい、水・緑ゆたかな、風格とゆとりのあるまちなみを形成することを掲げている。

また、大阪のランドマークである中之島の魅力をより一層高めるため、水辺の立地特性や周辺との調和に配慮した建築物低層部や敷地のデザインなどを行い、水辺のまちの魅力を高めるとともに、歴史的空間である東部と新しい都市活動の空間である西部をつなぐ、ゆったりとした散策・回遊できる遊歩道の整備に努め歴史や伝統と新しい都市の魅力にあふれた、水の都大阪のシンボルにふさわしい都市景観を形成することとしている。

3) 道頓堀川景観形成地域

【景観形成目標】

道頓堀川は大阪「ミナミ」の繁華街の中心を流れ、古くから市民や地域を訪れる人々に親しまれている川であるとともに、都心部において、水と空とまちなみを一体として見ることの出来る貴重なオープンスペースでもある。

こうした道頓堀川の持つ特性を活かしながら、水辺整備による魅力ある水辺空間を創出するとともに「水辺と一体感のあるまちなみ」の形成を図り、「川沿いの魅力」を高めることにより、うるおい、憩い、にぎわいのある水辺景観を形成することを目標にしている。

【景観形成方針】

景観形成の基本的な方針として、道頓堀川東部は、建築物や敷地は、水辺の遊歩道や橋梁、対岸の建築物からの眺めを意識し、川側の「見え」に配慮するとともに、個性を持ちつつ周辺とも調和のあるデザインとする。また、低層部は遊歩道を行く人々が気軽に出入りできるような開放性のあるものとし、川、水辺、遊歩道と沿川のまちが一

体となったにぎわいのある水辺のまちなみを形成することとしている。

道頓堀川西部は、水辺に面する建築物は橋梁や川からの眺めを意識したデザインの工夫や、周囲の建築物にも配慮し、敷地の植栽などについても水辺と調和のとれたデザインとなるように努めることにより、ゆとりとやすらぎの感じられる開放的なまちなみを形成していく。



写真—4 道頓堀川景観形成地域

また、「川沿いの魅力」を高めるという観点から道頓堀川東部は、水辺整備により、沿川建築物は川に向きやすいように、歩行者のたまり場や船着場などの整備を行い、水辺の交流空間の創出につとめ、大阪「ミナミ」の繁華街にふさわしいにぎわいを創出する。道頓堀川にかかる橋梁は、魅力ある水辺空間を構成する構造物の一つとして人々が憩うことのできる場としての整備に努める。

道頓堀川西部は、広がりのある開放的な河川の特徴を生かし、みどり豊かな水辺や、やすらぎを感じられる遊歩道の整備に努めるとともに、最寄りの道路などからのアプローチの確保や河川の水質浄化に努め、憩いとうるおいをかもす水辺空間の創出に努める。また、橋梁など構造物のデザインは、魅力ある水辺空間の構成要素の一つとして水辺からの眺めや、中景、遠景も意識したデザインの工夫に努める。

4. おわりに

道頓堀川の水辺整備は、今年11月に戎橋から太左衛門橋の区間が完成予定であり、遊歩道からの視点が広がることとなるため、大阪らしいにぎわいのあるまちになるよう、河川沿川の景観形成に向けて市民等との協力を図って行きたい。